

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	研究科等連係課程の設置								
フリガナ設置者	コリツカクイガクウジン グンマダク								
フリガナ大学の名称	グンマダクイガクウジクイン								
大学本部の位置	群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地								
大学の目的	<p>群馬大学は、上毛三山に抱かれた明るく豊かな自然風土の下、昭和二十四年に新製の国立大学として誕生した。それ以後、北関東を代表する総合大学として、有為な人材を育成するとともに、真理と平和を希求し、深遠な学理とその応用を考究し、世界の繁栄と人類の福祉に貢献することを目的として、その社会的使命を果たしてきた。</p> <p>二十世紀後半は、科学技術の飛躍的發展と経済の繁栄に象徴される時代であり、同時に、人類の生存と繁栄の根幹に関わる諸問題が地球的規模において顕在化した時代でもあった。この中であって、本学は、教育学、社会情報学、医学、工学の各分野における教育及び研究を通して、真摯に時代の要請に答えてきた。</p> <p>ここにおいて、群馬大学は、二十一世紀を多面的かつ総合的に展望し、地球規模の多様なニーズに応えるため、新しい時代の教育及び研究の担い手として、次の基本理念を宣言する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新しい困難な諸課題に意欲的、創造的に取り組むことができ、幅広い国際的視野を備え、かつ人間の尊厳の理念に立脚して社会で活躍できる人材を育成する。 2 教育及び研究活動を世界的水準に高めるため、国内外の教育研究機関と連携し、世界の英知と科学・技術の粋を集め、常に切磋琢磨し、最先端の創造的な学術研究を推進する。 3 教育及び研究の一層の活性化と個性化を実現するため、大学構成員の自主性、自律性を尊重し、学問の自由とその制度的保障である大学の自治を確立するとともに、それに対する大学としての厳しい自己責任を認識し、開かれた大学として不断の意識改革に務める。 								
新設研究科等の目的	公衆衛生分野・保健医療政策領域で活躍できる卓越した能力を持った人材を育成し、健康増進・疾病予防や、地域・国・地球レベルの健康への脅威への対処及び健康水準の格差是正の組織的な活動に寄与する。								
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	パブリックヘルス学環	2年	5人	-	10人	修士(社会健康医学)	医学関係 保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	令和6年4月 第1年次	群馬県前橋市昭和町三丁目39番22号
	連係協力研究科(Ⅰ) 医学系研究科 生命医科学専攻	2	15	-	30	修士(生命医科学)	医学関係	平成19年4月 第1年次	群馬県前橋市昭和町三丁目39番22号
	生命医科学専攻からパブリックヘルス学環の内数とする入学定員数		3	-	6				
	連係協力研究科(Ⅱ) 保健学研究科 保健学専攻	2	50	-	100	修士(保健学) 修士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係) 保健衛生学関係 (リハビリテーション関係) 保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	平成23年4月 第1年次	群馬県前橋市昭和町三丁目39番22号
	保健学専攻からパブリックヘルス学環の内数とする入学定員数		2	-	4				
計		-	-	-	-				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>社会情報学研究科(廃止) 社会情報学専攻(修士課程) (△14) ※令和6年4月学生募集停止</p> <p>情報学研究科 情報学専攻(修士課程) (60) (令和5年7月設置報告)</p> <p>理工学府 理工学専攻(博士前期課程) [定員減] (△46)</p> <p>医理エリギュラトリーサイエンス学環(修士課程) (5) (令和5年7月設置報告)</p>								

教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	パブリックヘルス学環	24科目	7科目	0科目	31科目	32単位			
	研究科等の名称	専任教員					助手	専任教員以外の教員 (助手を除く)	
		教授	准教授	講師	助教	計			
		人	人	人	人	人	人		
新設	情報学研究科 情報学専攻（博士前期課程）	25 (25)	25 (25)	2 (2)	0 (0)	52 (52)	0 (0)	22 (22)	
	研究科等連係課程基本組織 パブリックヘルス学環 (修士課程)								
	連係協力研究科（Ⅰ） 医学系研究科 生命医科学専攻（修士課程）	<0> 【15】 (15)	<0> 【1】 (1)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【16】 (16)	<0> 【0】 (0)	<0> 【92】 (92)	
	連係協力研究科（Ⅱ） 保健学研究科 保健学専攻（博士前期課程）								
	研究科等連係課程基本組織 医理工レギュラトリーサイエンス学環 (修士課程)								
	連係協力研究科（Ⅰ） 医学系研究科 生命医科学専攻（修士課程）	<0> 【10】 (10)	<0> 【1】 (1)	<0> 【0】 (0)	<0> 【8】 (8)	<0> 【19】 (19)	<0> 【0】 (0)	<0> 【61】 (61)	
	連係協力研究科（Ⅱ） 理工学府 理工学専攻（博士前期課程）								
	計	50 (50)	27 (27)	2 (2)	8 (8)	87 (87)	0 (0)	— (—)	
	既設	教育学研究科 教育実践高度化専攻（専門職学位課）	20 (20)	14 (14)	4 (4)	0 (0)	38 (38)	0 (0)	50 (50)
		医学系研究科 生命医科学専攻（修士課程）	57 (57)	39 (39)	31 (31)	0 (0)	127 (127)	0 (0)	49 (49)
医学系研究科 医科学専攻（博士課程）		57 (57)	50 (50)	45 (45)	0 (0)	152 (152)	0 (0)	79 (79)	
保健学研究科 保健学専攻（博士前期課程）		30 (30)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	43 (43)	0 (0)	71 (71)	
保健学研究科 保健学専攻（博士後期課程）		30 (30)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	43 (43)	0 (0)	17 (17)	
理工学府 理工学専攻（博士前期課程）		68 (69)	58 (71)	0 (5)	0 (0)	126 (145)	0 (0)	144 (46)	
理工学府 理工学専攻（博士後期課程）		68 (69)	58 (71)	0 (0)	0 (0)	126 (140)	0 (0)	30 (12)	
計		175 (176)	135 (147)	49 (54)	0 (0)	359 (377)	0 (0)	— (—)	
合計		200 (201)	160 (172)	51 (56)	8 (8)	419 (437)	0 (0)	— (—)	
職 種		専 属			そ の 他		計		
事 務 職 員		人			人		人		
		365 (365)			326 (326)		691 (691)		
技 術 職 員		1,173 (1,173)			179 (179)		1,352 (1,352)		
図 書 館 職 員		4 (4)			0 (0)		4 (4)		
そ の 他 の 職 員		1 (1)			555 (555)		556 (556)		
指 導 補 助 者		0 (0)			0 (0)		0 (0)		
計		1,543 (1,543)			1,060 (1,060)		2,603 (2,603)		

注)
<>の中の数は研究科等連係課程実施基本組織のみに従事する専任教員。
【】の中の数は研究科等連係課程実施基本組織と連係協力研究科等に従事する専任教員。

校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校 舎 敷 地		476,626 m ²	0 m ²	0 m ²	476,626 m ²			
	そ の 他		155,408 m ²	0 m ²	0 m ²	155,408 m ²			
	合 計		632,034 m ²	0 m ²	0 m ²	632,034 m ²			
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		160,923 m ² (160,923 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	160,923 m ² (160,923 m ²)				
講義室等・新設研究科等 の専任教員研究室		講義室	実験・実習室	演習室	新設研究科等 の専任教員研究室		大学全体		
		84室	162室	711室	15室				
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具	標本		
		冊	冊	種	種	点	点		
	計	607,478 [180,973] (607,478 [180,973])	1,384 [356] (1,384 [356])	23,846 [11,200] (23,846 [11,200])	8,226 [6,696] (8,226 [6,696])	8,418 (8,418)	25 (25)	学部単位での特 定不能なため、 大学全体の数	
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	
		教員1人当り研究費等		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
	学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次		
			— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要	—							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 等 の 名 称		群馬大学						
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率	開設 年度	所 在 地
	共同教育学部	年	人	年次 人	人		倍		
	学校教育教員養成課程	4	190	—	760	学士（教育学）	1.07	令和2年度	群馬県前橋市荒牧 町四丁目2番地
	教育学部								
	学校教育教員養成課程	4	—	—	—	学士（教育学）	—	平成11年度	同上
	情報学部								
	情報学科	4	170	3年次 10	700	学士（情報学）	1.03	令和3年度	同上
社会情報学部									
社会情報学科	4	—	—	—	学士（社会情報 学）	—	平成28年度	同上	
医学部									
医学科	6	108	2年次 15	723	学士（医学）	1.05	昭和24年度	群馬県前橋市荒牧 町四丁目2番地 群馬県前橋市昭和 町三丁目39番22号	
保健学科	4	160	3年次 10	660	学士（看護学） 学士（保健学）	0.98	平成8年度	同上	

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：群馬大学医学部附属病院 目的：患者の安全を第一とする高度な医療安全管理体制を確保し、その体制下で先進的医療を提供するとともに、次代を担う医療人育成のための教育及び研究を行うことを目的とする。 所在地：前橋市昭和町三丁目39番15号 設置年月：昭和24年5月 規模等：建物 92,547 m²</p>
	<p>名称：医学系研究科附属生物資源センター 目的：実験動物の飼育管理及び高次の実験を行い、医学教育及び研究の向上発展に資することを目的とする。 所在地：前橋市昭和町三丁目39番22号 設置年月：平成15年4月 規模等：建物 4,986 m²</p>
	<p>名称：医学系研究科附属薬剤耐性菌実験施設 目的：種々の病原菌を用い、疫学、生化学及び分子遺伝学的方法をもって、薬剤耐性菌についての基礎的及び応用的課題を解明するとともに、薬剤耐性菌の収集・保存及び配布することを目的とする。 所在地：前橋市昭和町三丁目39番22号 設置年月：平成15年4月 規模等：建物 251 m²</p>
	<p>名称：共同教育学部附属教育実践センター 目的：教育実践に関する臨床の学の創出を目指し、教育関係諸機関と連携し、教育実習、教育実践及び教育相談に関する理論的・実践的研究を行うとともに、それらの成果を踏まえた教育、研修及び支援を行い、豊かな教育実践力と子どもの成長をめぐる諸問題の解決力を身につけた学校教員の養成及び学校の教育力の向上に寄与することを目的とする。 所在地：群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地 設置年月：令和2年4月 規模等：建物 228 m²</p>
	<p>名称：共同教育学部附属小学校 目的：普通教育のうち基礎的なものを施し、かつ小学校教育の理論及び実際に関する研究並びに実証に寄与するとともに、共同教育学部学生の教育実習の実施に当たることを目的とする。 所在地：群馬県前橋市若宮町二丁目8番1号 設置年月：昭和26年4月 規模等：土地 29,753 m²（附属特別支援学校と共有）、建物 8,365 m²</p>
	<p>名称：共同教育学部附属中学校 目的：普通教育を施し、かつ中学校教育の理論及び実際に関する研究並びに実証に寄与するとともに、共同教育学部学生の教育実習の実施に当たることを目的とする。 所在地：群馬県前橋市上沖町612番地 設置年月：昭和26年4月 規模等：土地 37,430 m²、建物 6,700 m²</p>
	<p>名称：共同教育学部附属特別支援学校 目的：知的障害者に対して、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施し、あわせて自立を図るために必要な知識技能を授け、かつ教育の理論及び実際に関する研究並びに実証に寄与するとともに、共同教育学部学生の教育実習の実施に当たることを目的とする。 所在地：群馬県前橋市若宮町二丁目8番1号 設置年月：昭和54年4月 規模等：土地 29,753 m²（附属小学校と共有）、建物 4,008 m²</p>
<p>名称：共同教育学部附属幼稚園 目的：幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、幼児の保育に関する研究及び共同教育学部学生の教育実習の実施に当たることを目的とする。 所在地：群馬県前橋市若宮町二丁目5番3号 設置年月：昭和26年4月 規模等：土地 5,150 m²、建物 978 m²</p>	

国立大学法人群馬大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
群馬大学				群馬大学				
共同教育学部 学校教育教員養成課程	190	-	760	共同教育学部 学校教育教員養成課程	190	-	760	
情報学部 情報学科	170	10	700	情報学部 情報学科	170	10	700	
医学部 医学科	108	15	723	医学部 医学科	90	15	615	定員変更(△18) 医学部医学科の入学定員18名の増加については、令和5年度までの措置。
保健学科	160	10	660	保健学科	160	10	660	
理工学部 物質・環境類	285	10	1,160	理工学部 物質・環境類	285	10	1,160	
電子・機械類	185	13	766	電子・機械類	185	13	766	
計	1,098	15 43	4,769	計	1,080	15 43	4,661	
群馬大学大学院				群馬大学大学院				
教育学研究科 教育実践高度化専攻(P)	20	-	40	教育学研究科 教育実践高度化専攻(P)	20	-	40	
社会情報学研究科 社会情報学専攻(M)	14	-	28	社会情報学研究科 社会情報学専攻(M)	0	-	0	令和6年4月学生募集停止
医学系研究科 生命医科学専攻(M)	15	-	30	医学系研究科 生命医科学専攻(M)	15	-	30	
医科学専攻(D)	57	-	228	医科学専攻(D)	57	-	228	
保健学研究科 保健学専攻(M)	50	-	100	保健学研究科 保健学専攻(M)	50	-	100	
保健学専攻(D)	10	-	30	保健学専攻(D)	10	-	30	
理工学府 理工学専攻(M)	300	-	600	理工学府 理工学専攻(M)	254	-	508	定員変更(△46)
理工学専攻(D)	39	-	117	理工学専攻(D)	39	-	117	
計	505	-	1,173	計	505	-	1,173	
								研究科の設置 専攻の設置(設置報告)
								令和6年4月学生募集停止
								(※1) パブリックヘルス学環(M)の内数とする入学定員数及び収容定員数
								(※2) 医理工レギュラトリーサイエンス学環(M)の内数とする入学定員数及び収容定員数
								研究科等連係課程実施基本組織の設置(設置報告)(※1)
								研究科等連係課程実施基本組織の設置(設置報告)(※2)

設置の前後における学位等及び基幹教員の所属の状況

届出時における状況					新設学部等の学年進行状況						
学部等の名称	授与する学位等		異動先	基幹教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	基幹教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
医学系研究科 生命医科学専攻	修士 (生命医科学)	医学関係	パブリックヘルス学環(兼務)	8	8	パブリックヘルス学環	修士 (社会健康医学)	医学関係 保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	医学系研究科生命医科学専攻(兼務)	8	8
			医学系研究科生命医科学専攻	117	47				保健学研究科保健学専攻(兼務)	8	7
			医理エレクトロニクス学環(兼務)	2	2						
			計	127	57				計	16	15
保健学研究科 保健学専攻	修士 (保健学) 修士 (看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係) 保健衛生学関係 (リハビリテーション関係) 保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	パブリックヘルス学環(兼務)	8	7	医学系研究科 生命医科学専攻	修士 (生命医科学)	医学関係	パブリックヘルス学環(兼務)	8	8
			保健学研究科保健学専攻	35	23				医学系研究科生命医科学専攻	117	47
									医理エレクトロニクス学環(兼務)	2	2
			計	43	30				計	127	57
						保健学研究科 保健学専攻	修士 (保健学) 修士 (看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係) 保健衛生学関係 (リハビリテーション関係) 保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	パブリックヘルス学環(兼務)	8	7
									保健学研究科保健学専攻	35	23
									計	43	30

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続きの区分
平成13年4月	医学系研究科保健学専攻博士前期課程 設置	保健衛生学関係	設置認可(研究科)
平成15年4月	医学系研究科保健学専攻博士後期課程 設置	保健衛生学関係	設置認可(研究科)
平成19年4月	医学系研究科生命医科学専攻 設置	医学関係	設置認可(研究科)
平成23年4月	保健学研究科保健学専攻 設置	保健衛生学関係	設置報告(研究科)
平成23年4月	医学系研究科保健学専攻の学生募集停止	-	学生募集停止(専攻)
令和6年4月	パブリックヘルス学環 設置	医学関係、保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	設置報告(研究科等連係課程実施基本組織)

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(パブリックヘルス学環 修士課程)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員	
大学院 共通科目	アカデミック コミュニケーション	Research Skills - Presentation and Writing 効果的なプレゼンスキルとライテ ィングスキル	1後		2			○						4			
		小計 (1科目)	—	—	2	0	0	—		0	0	0	0	0	4		
	データ サイエンス	Pythonによる数理解析	1前			2		○						3			
		画像処理と実践応用演習	1前			2		○						3			
		小計 (2科目)	—	—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	3		
サイレ ギュラ トリー サイエ ンス	レギュラトリーサイエンス概論	1後		2			○							16	オムニバス		
	小計 (1科目)	—	—	2	0	0	—		0	0	0	0	0	16			
連携 開放 科目	医学 一般	病態生理学	1・2前			2		○			5				5	オムニバス	
		生理機能解析学 (応用生理)	2通			2		○			1						
		病理学概論	2通			2		○							5	オムニバス	
		臨床医学概論A	1・2前			2		○							15	オムニバス	
		行動科学	1前			1		○							2	オムニバス	
	地域・ 国際 保健	地域保健医療研究概論	1・2前			2		○				1				15	オムニバス 共同(一部)
		国際協力・保健学特論	1・2通			2		○				1				1	オムニバス
	倫 理	研究倫理	1・2前		1			○				2				6	オムニバス
		研究倫理 (e-learning)	1・2前		1			○								2	
	サイ デー タ サイ エ ン ス	統計・情報処理演習A	1・2前			2			○			1				2	オムニバス
情報医療学講義		2前			2		○							2	オムニバス		
基礎保健データ解析学		1・2前			2		○				1				2	オムニバス	
ヘル ス シ ョ ン コ ミ ュ ニ	異文化コミュニケーション論	1・2通			2		○					1			2	集中 オムニバス	
	医療人のための教育学 I	1・2前			2		○				1				4	集中 オムニバス	
ゲ ノ ム	ゲノム医学演習	2前			2			○							2	オムニバス	
	遺伝学	2後			1		○				1						
	小計 (16科目)	—	—	2	26	0	—			10	1	0	0	0	57		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外を除く教員		
教育専門コア科目	環境保健学	1前			2		○			1						5	オムニバス
	疫学	1後			2		○			1						1	オムニバス
	臨床試験特論	1後			2		○			2						11	オムニバス共同(一部)
	生物統計学	1通			2		○									5	オムニバス
	医療政策学	1後			2		○			1						3	オムニバス
	社会行動科学・	社会・環境医学講義A	1前			2		○			1						2
	小計(6科目)	—	—	0	10	2	—	—	—	4	0	0	0	0	0	23	
インターナショナル	インターナシップⅠ	1・2通			1			○		15	1						
	インターナシップⅡ	1・2通			2			○		15	1						
	国際インターナシップⅠ	1・2通			1			○		15	1						
	国際インターナシップⅡ	1・2通			2			○		15	1						
	小計(4科目)	—	—	0	6	0	—	—	—	15	1	0	0	0	0	0	
特別研究	特別研究	1・2通		12				○		10							
	小計(1科目)	—	—	12	0	0	—	—	—	10	0	0	0	0	0	0	
合計(31科目)		—	—	18	46	2	—	—	—	15	1	0	0	0	0	92	
学位又は称号	修士(社会健康医学)			学位又は学科の分野					医学関係 保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)								
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等								
<p>修了要件は、以下の要件を満たし、32単位以上を修得するとともに、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>1. 大学院共通科目6単位以上を修得する(アカデミックコミュニケーションから2単位、データサイエンスから2単位以上、レギュラトリーサイエンスから2単位)。</p> <p>2. 連携開放科目から必修科目2単位(研究倫理、研究倫理(e-learning))及び医学一般から2単位以上を含む、合計6単位以上を修得する。ただし、医療系学部出身者は「医学一般」以外の科目から4単位以上を修得(「医学一般」は非医療系学部出身者が対象のため、履修しても修了要件単位に算入されない)。</p> <p>3. 教育専門コア科目の各領域(5領域)から1科目ずつ以上修得し、合計8単位以上を修得する。必修科目である大学院共通科目・レギュラトリーサイエンス概論で行動科学の内容を扱うため、社会医学・行動科学領域の社会・環境医学講義Aの履修は自由とする。</p> <p>4. 特別研究を12単位修得する。</p>									1学年の学期区分				2期				
									1学期の授業期間				15週				
									1時限の授業の標準時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(医学系研究科生命医科学専攻)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員	
基礎 科目	研究倫理	1・2前		1			○			2					5		
	研究倫理 (e-learning)	1・2通		1			○			1		1					
	臨床医学概論	1・2通		2			○			6	2				1		
	生命倫理学講義	1・2通		2			○			1		1					
	基礎医学外国語	1・2後		2			○			1					2		
	統計・情報処理演習	1・2通		2				○		1	1						
	生命医科学基礎実習	1・2通		1					○	2	2						
	生体構造学講義	1・2通			2			○		2	1	3					
	生理機能解析学講義	1・2通			2			○		3	1	3			1		
	生体分子情報学講義	1・2通			2			○		1	1				1		
	社会・環境医学講義	1・2通			2			○		1							
	動物実験学演習	1・2通			2				○	2	1	1					
	情報処理学・画像工学	1・2通			2			○			1				1	※1	
	放射線生物学	1・2後			1			○		3	2	1			2	※1	*
	放射線基礎物理学	1・2通			2			○			1					※1	
	医用加速器工学	1・2通			1			○			1				2	※2	*
	放射線関連法規および勧告	1・2通			1			○			1					※1	
	力学	1・2通			2			○			1					※3	
	電磁気学	1・2通			2			○			1				1	※3	
	解剖学	1・2前			1			○		1	1	1				※3	
	生理学	1・2通			1			○		1						※3	
	病理学	1・2通			2			○		2	2					※3	
	量子力学	1・2通			2			○			1				1	※3	
	原子核物理学	1・2通			2			○			1				1	※3	
	物理数学	1・2通			1			○			1				1	※3	
	計測制御工学特論	1・2後			2			○							1	※4	
	光デバイス工学特論	1・2後			2			○							2	※4	
	先端計測デバイス特論	1・2前			2			○							2	※4	
	電子工学特論	1・2前			2			○							3	※4	
	シミュレーションとナノ計測工学特論	1・2前			2			○							3	※4	
	小計 (32科目)	—	—	—	11	40	0	—	—	—	18	11	9	0	0	32	
	基礎・ 実践 科目	放射線学シミュレータ特論	1・2通			2			○							2	
放射線画像技術学特論		1・2通			2			○							2		
放射線画像解析学特論 I		1・2通			2			○							2		
放射線画像解析学特論 II		1・2通			2			○							3		
放射線安全管理特論		1・2通			2			○							2		
小計 (5科目)	—	—	—	0	10	0	—	—	0	0	0	0	0	9			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(助手を除く)の教員	
実践科目	病理学概論	2通			2		○			2	2						
	細菌感染制御学講義	2通			2		○			1	2	1					
	神経科学講義	2通			2		○			1	2	1				1	
	臨床腫瘍学講義	2通			2		○			3		1					※2
	臨床検査・画像核医学講義	2通			2		○			1	1					1	※2
	生殖再生・発育医学講義	2通			2		○			1		1					
	情報医療学講義	2通			2		○				2						*
	国際公衆衛生学講義	2通			2		○			1	1						
	加速器バイオ工学講義	2通			2		○									3	
	薬理学・創薬演習	2通			2			○		1	1						
	臨床試験(治験)学演習	2通			2			○	○	2	1						
	ゲノム医学演習	2通			2			○	○	1	1						
	機能回復医学・社会学演習	2通			2			○	○	1		1					
	放射線治療物理学講義	2通			2			○			1				2		※1
	放射線診断・核医学物理学講義	2通			2			○			1				2		※1
	保健物理・放射線防護学講義	2通			2			○			1				2		※1
	放射線計測学講義	2通			2			○			1				2		※1
	医学物理演習	2通			1				○		1				5		※1
	医学物理実習	2通			1					○	1				5		※1
	重粒子線治療講義	2通			2			○			1				4		※2
小計(20科目)		—	—	0	38	0				15	14	5	0	0	13		
研究科目	生命医科学方法論演習	1・2通			2			○		57	39	31			43		
	生命医科学研究特論	1・2通			10			○		57	39	31			42		
	研究発表討論セミナー	2後			1			○		1		2			1		
小計(3科目)		—	—	13	0	0			57	39	31	0	0	49			
合計(60科目)				—	—	24	88	0		57	39	31	0	0	49		
学位又は称号		修士(生命医科学)			学位又は学科の分野				医学関係								
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等								
原則として、本課程に2年以上在学して所定の単位(32単位以上)を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。									1学年の学期区分		2期						
									1学期の授業期間		15週						
									1時限の授業の標準時間		90分						
○基礎科目 選択科目から4単位以上 但し、※1、※2及び(*)は「医学物理コース」又は「放射線生命医科学コース」のみ履修可、※3は「医学物理コース」のみ履修可、※4は「医理工連携コース」のみ履修可 医学物理コースの者は、※1の科目を必修で履修、※2の科目を選択で履修、※3の科目を本大学院入学時に履修していない学生のみ履修(e-learning含む。) 医理工連携コースの者は、※4の科目を選択で履修 2単位以上																	
○基礎・実践科目 「放射線生命医科学コース」のみ履修可、2単位以上																	
○実践科目 4単位以上 但し、※1、※2及び(*)は「医学物理コース」又は「放射線生命医科学コース」のみ履修可 医学物理コースの者は、※1の科目を必修で履修、※2の科目を選択で履修(e-learning含む。)																	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(保健学研究科保健学専攻)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
共通科目	研究倫理特論	1・2前			1		○			4					3		
	研究倫理特論 (Eラーニング)	1・2前			1		○								1		
	医療人のための教育学Ⅰ	1・2前			2		○			1					3		
	医療人のための教育学Ⅱ	1・2後			2		○			2	2				2		
小計(4科目)		—	—	0	6	0	—	—	—	5	2	0	0	0	7		
基礎保健学ユニット	コア科目																
	医療倫理学特論	1・2前			2		○								2		
	医療政策学・医療経済学特論	1・2後			2		○			1							
	基礎保健データ解析学	1・2前			2		○			1	1						
	小計(3科目)		—	—	0	6	0	—	—	—	2	1	0	0	0	2	
	看護学領域	看護教育論	1・2前			2		○			1					1	
		看護理論	1・2前			2		○			2	2				2	
		コンサルテーション論	1・2後			2		○			6	1					
		看護政策論	1・2前			2		○			1	1					
		看護研究方法論	1・2前			2		○			2	4				1	
		看護管理論	1・2前			2		○				1				1	
		基礎看護学特論	1・2前			2		○			1					3	
		基礎看護学演習	1・2後			2			○		1					3	
基礎看護学特別研究		2通			10			○		1							
看護管理学特論		1・2前			2		○				1				3		
看護管理学演習	1・2後			2			○			1				2			
看護管理学特別研究	2通			10			○			1							
看護学特別セミナー	1・2前			2		○			5	2							
小計(13科目)		—	—	0	42	0	—	—	—	9	5	0	0	0	3		
科学体情報検査	分子情報分析科学特論	1・2前			2		○			2	1				5		
	分子情報分析科学演習	1・2後			2			○		2	1				2		
	分子情報分析科学特別研究Ⅰ	2通			10			○		1							
	分子情報分析科学特別研究Ⅱ	2通			10			○		1							
	分子情報分析科学特別研究Ⅲ	2通			10			○			1						
	生体情報検査科学特別セミナー	2前			2		○			7	4				1		
小計(6科目)		—	—	0	36	0	—	—	—	7	4	0	0	0	7		
リハビリテーション学領域	病態障害解析学特論	1・2前			2		○			3	1				1		
	病態障害解析学演習	1・2後			2			○		2	1						
	機能評価回復学特論	1・2前			2		○			1	1						
	機能評価回復学演習	1・2後			2			○		1	1						
	基礎理学療法学特別研究	2通			10			○		2	1						
	基礎作業療法学特論	1・2前			2		○			2					1		
	基礎作業療法学演習	1・2後			2			○		2					1		
	基礎作業療法学特別研究	2通			10			○		2					1		
	リハビリテーション学特別セミナー	1・2前			2		○			2	2				2		
小計(9科目)		—	—	0	34	0	—	—	—	6	3	0	0	0	2		
応用保健学ユニット	ユニットコア科目																
	病態生理学	1・2前			2		○			6					4		
	フィジカルアセスメント	1・2前			2		○			4					2		
	臨床薬理学	1・2前			2		○			4					3		
	がん病態機能学	1・2前			2		○			3					8		
	先端医療特論	1・2後			2		○			1					6		
	臨床試験特論	1・2後			2		○			2					5		
	ウィメンズヘルステル	1・2後			2		○			1					1		
学外特別研修	1・2通			2			○		1								
小計(8科目)		—	—	0	16	0	—	—	—	10	0	0	0	0	29		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(助手を除く)の教員
看護学領域	慢性看護学特論	1・2前			2		○			3					2	
	慢性看護学アセスメント論Ⅰ	1・2前			2		○			2					2	
	慢性看護学アセスメント論Ⅱ	1・2前			2		○			2					2	
	慢性看護学支援技術論	1・2前			2		○			2					2	
	慢性看護学演習	1・2後			2			○		2					2	
	慢性看護学支援技術論演習	1・2後			2			○		3					3	
	慢性看護学システム論	1・2後			2		○			4	1				1	
	慢性看護学治療環境論	1・2後			2		○			1	1				2	
	慢性看護学実習Ⅰ	1・2後			2				○	1					2	
	慢性看護学実習Ⅱ	1・2前			4				○	1					2	
	慢性看護学実習Ⅲ	2前			4				○	1					2	
	慢性看護学特別研究	2通			10			○		2						
	慢性看護学課題研究	2通			6			○		1						
	がん看護学特論	1・2前			2			○		1					3	
	がん看護理論	1・2前			2			○		2					3	
	がん看護学演習	1・2後			2				○	1					3	
	がん看護緩和ケア演習	1・2後			2				○	1					1	
	がん放射線療法看護演習	1・2後			2				○	1					1	
	がん治療看護介入演習Ⅰ	1・2後			2				○	1					5	
	がん治療看護介入演習Ⅱ	1・2後			2				○	1					2	
	がん高度実践看護学実習Ⅰ	1・2後			2				○	1					3	
	がん高度実践看護学実習Ⅱ	1・2通			2				○	1					3	
	がん高度実践看護学実習Ⅲ	1・2通			2				○	1					3	
	がん治療看護学実習Ⅰ	2前			2				○	1					6	
	がん治療看護学実習Ⅱ	2前			2				○	1					6	
	がん看護学特別研究	2通			10			○		1						
	がん看護学課題研究	2通			6			○		1						
	精神看護学特論	1・2前			2			○		1					1	
	精神看護学演習	1・2後			2				○	1					1	
	精神看護学特別研究	2通			10				○	1						
	母性看護学特論Ⅰ	1・2前			2			○		1	1				3	
	母性看護学特論Ⅱ	1・2前			2			○		1	1				1	
	母性看護学特論Ⅲ	1・2前			2			○		1	1				3	
	母性看護学特論Ⅳ	1・2前			2			○		1	1				6	
	母性看護学特論Ⅴ	1・2前			2			○		1					2	
	母性看護学・助産学演習	1・2後			2				○	1	1				2	
	母性看護学演習Ⅰ	1・2後			2				○	3	1				2	
	母性看護学演習Ⅱ	1・2後			2				○	1	1				3	
	母性看護学実習Ⅰ	1・2後			2					○	1				2	
	母性看護学実習Ⅱ	2前			4					○	2	1			5	
	母性看護学実習Ⅲ	2前			4					○	1				2	
	母性看護学・助産学特別研究	2通			10				○	1	1					
	母性看護学課題研究	2通			6				○	1						
	小児看護学特論	1・2前			2			○		1	1					
	小児看護学演習	1・2後			2				○	1	1					
	小児看護学特別研究	2通			10				○	1	1					
	基礎腫瘍学	1・2通			1			○		2					1	
精神・社会腫瘍学と患者教育	1・2通			1			○		2					1		
医療ケアとチーム医療	1・2通			1			○		2					1		
がんゲノム医療(看護)学	1・2通			1			○		2					1		
小児・AYA・希少がん看護学	1・2通			1			○		2					1		
がんライフ・QOL看護学	1・2通			1			○		2					1		
小計(53科目)		—	—	0	158	0	—	—	9	4	0	0	0	24		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 (助手を除く) の教員	
生体情報検査科学領域	機能情報解析学特論	1・2前			2		○			2	1						
	機能情報解析学演習	1・2後			2			○		2	1						
	機能情報解析学特別研究Ⅰ	2通			10			○		1	1						
	機能情報解析学特別研究Ⅱ	2通			10			○		1							
	組織・細胞情報解析学特論	1・2前			2		○			1						1	
	組織・細胞情報解析学演習	1・2後			2			○		2							
	細胞情報解析学特論Ⅰ	1・2前			2		○			1							
	細胞情報解析学特論Ⅱ	1・2前			2		○			1							
	組織・細胞情報解析学特別研究Ⅰ	2通			10			○		1							
	組織・細胞情報解析学特別研究Ⅱ	2通			10			○		1							
	臨床試験演習	1・2前			2			○		2							2
	小計(12科目)	—	—	—	0	54	0	—	—	—	5	1	0	0	0	0	3
学リ領域 ハビリテーション	運動器障害学特論	1・2前			2		○			1							
	運動器障害学演習	1・2後			2			○		1							
	スポーツ理学療法学特論	1・2前			2		○			1						1	
	スポーツ理学療法学演習	1・2後			2			○		1						1	
	運動器・スポーツ理学療法学特別研究	2通			10			○		2							
	応用作業療法学特論	1・2前			2		○				1						
	応用作業療法学演習	1・2後			2			○			1						
	応用作業療法学特別研究	2通			10			○			1						
小計(9科目)	—	—	—	0	32	0	—	—	—	2	1	0	0	0	0	1	
地域・国際保健学ユニット	国際協力・保健学特論	1・2通			2		○			1							1
	加齢・老年学特論	1・2前			2		○			5	2						4
	異文化コミュニケーション論	1・2通			2		○				1						2
	地域保健医療研究概論	1・2前			2		○			3							
	地域精神保健特論	1・2前			2		○			1							
	在宅ケア学特論	1・2前			2		○			2	2						
	医療保健英語Ⅰ	1・2前			2			○			1						
	医療保健英語Ⅱ	1・2後			2			○			1						
小計(8科目)	—	—	—	0	16	0	—	—	—	11	5	0	0	0	0	7	
看護学領域	老年看護学特論	1・2前			2		○			1	1						
	老年看護学アセスメント論	1・2前			2		○			1	1						
	老年看護学システム論	1・2前			2		○			2	1						
	老年在宅看護論	1・2通			2		○			2	2						
	老年看護学演習	1・2後			2			○		1	1						
	老年看護実践演習	1・2後			2			○		1	1						
	認知症看護演習	1・2後			2			○		1	2						
	老年看護高度アセスメント実習Ⅰ	1・2後			2				○	1	1						
	老年看護高度アセスメント実習Ⅱ	2前			2				○	1	1						1
	老年高度実践看護学実習Ⅰ	1・2後			2				○	1	1						
	老年高度実践看護学実習Ⅱ	2前			2				○	1	1						1
	老年高度実践看護学実習Ⅲ	2前			2				○	1	1						
	老年看護学特別研究	2通			10			○		1	1						
	老年看護学課題研究	2通			6			○		1	1						
	在宅看護学特論	1・2前			2		○			4							
	在宅看護学演習	1・2後			2			○		1							
	在宅看護学特別研究	2通			10			○		1							
	地域完結型看護実習指導論	1・2前			2		○			2							1
	地域完結型看護実践リーダー実習	1・2通			2			○		1							
	地域看護学特論	1・2前			2		○			1	1						
地域看護学演習	1・2後			2			○		1	1							
地域看護学特別研究	2通			10			○		1								
国際看護学特論	1・2前			2		○				1							
国際看護学演習	1・2後			2			○			1							
国際看護学特別研究	2通			10			○			1							
生活習慣病疫学特論	1・2前			2		○			1								
生活習慣病疫学演習	1・2後			2			○		1								
生活習慣病疫学特別研究	1・2通			10			○		1								
小計(29科目)	—	—	—	0	100	0	—	—	—	6	3	0	0	0	0	3	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(助手を除く)の教員
科学領域 生体情報検査	公衆保健学・疫学特論	1・2前			2		○			1	2				1	
	公衆保健学・疫学演習	1・2後			2			○		1	2				3	
	公衆保健学・疫学特別研究	2通			10			○		1	2					
	小計(4科目)	—	—	0	14	0	—	—	—	1	2	0	0	0	3	
学リハ領域 ピリテーション	地域・国際理学療法学特論	1・2前			2		○				2				2	
	地域・国際理学療法学演習	1・2後			2			○			1					
	地域・国際理学療法学特別研究	2通			10			○			1					
	地域・国際作業療法学特論	1・2前			2		○			1	1				1	
	地域・国際作業療法学演習	1・2後			2			○		1	1				1	
	地域・国際作業療法学特別研究	2通			10			○		1						
小計(7科目)	—	—	0	28	0	—	—	—	1	3	0	0	0	2		
合計(165科目)		—	—	0	542	0	—	—	—	30	13	0	0	0	71	
学位又は称号	修士(保健学)、修士(看護学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係)、保健衛生学関係(リハビリテーション関係)、保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)									
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等									
							1学年の学期区分		2期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業の標準時間		90分							
○基礎保健学ユニット																
必修科目及び選択科目を計30単位以上履修する。																
必修科目として、研究倫理特論1単位、研究倫理特論(Eラーニング)1単位及び主領域の特別セミナー2単位並びに指導教員等の開講する特論2単位、演習2単位及び特別研究10単位を履修する。																
選択科目として、ユニットコア科目又は他領域の専門教育科目から8単位以上及び主領域の専門教育科目から4単位以上選択履修する。																
(専門看護師コース)																
必修科目として、研究倫理特論1単位、研究倫理特論(Eラーニング)1単位、看護学特別セミナー2単位、指導教員等の開講する特論2単位、演習2単位、及び特別研究10単位又は課題研究6単位、並びに各専門看護師教育課程が指定する科目を履修する。																
選択科目として、ユニットコア科目及び各専門看護師教育課程の指定する科目から選択履修する。																
○応用保健学ユニット																
必修科目及び選択科目を計30単位以上履修する。																
必修科目として、研究倫理特論1単位、研究倫理特論(Eラーニング)1単位及び主領域の特別セミナー2単位並びに指導教員等の開講する特論2単位、演習2単位及び特別研究10単位を履修する。																
選択科目として、ユニットコア科目又は他領域の専門教育科目から8単位以上及び主領域の専門教育科目から4単位以上選択履修する。																
(専門看護師コース)																
必修科目として、研究倫理特論1単位、研究倫理特論(Eラーニング)1単位、看護学特別セミナー2単位、指導教員等の開講する特論2単位、演習2単位、及び特別研究10単位又は課題研究6単位、並びに各専門看護師教育課程が指定する科目を履修する。																
選択科目として、ユニットコア科目及び各専門看護師教育課程の指定する科目から選択履修する。																
○地域・国際保健学ユニット																
必修科目及び選択科目を計30単位以上履修する。																
必修科目として、研究倫理特論1単位、研究倫理特論(Eラーニング)1単位及び主領域の特別セミナー2単位並びに指導教員等の開講する特論2単位、演習2単位及び特別研究10単位を履修する。																
選択科目として、ユニットコア科目又は他領域の専門教育科目から8単位以上及び主領域の専門教育科目から4単位以上選択履修する。																
(専門看護師コース)																
必修科目として、研究倫理特論1単位、研究倫理特論(Eラーニング)1単位、看護学特別セミナー2単位、指導教員等の開講する特論2単位、演習2単位、及び特別研究10単位又は課題研究6単位、並びに各専門看護師教育課程が指定する科目を履修する。																
選択科目として、ユニットコア科目及び各専門看護師教育課程の指定する科目から選択履修する。																

授 業 科 目 の 概 要				
(パブリックヘルス学環 修士課程)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
大学院共通科目	アカデミックコミュニケーション	Research Skills - Presentation and Writing 効果的なプレゼンスキルとライティングスキル	本授業では、学部での卒業研究または大学院入学後取り組んでいる研究内容を具体的な材料として用いながら、下記の実践的な能力の修得を目指す。 1) 国際的な場において、効果的に発表したり質疑応答できるプレゼンテーションスキルズ 2) 説得力のある発表資料を作成するパワーポイントスキルズ 3) 発表した内容を論文としてまとめるライティングスキルズ	
	サイエンス	Pythonによる数理解析	Python のJupyter Hubを用いたe-learningにより、深層学習、自然科学に関する数理解析技術をそれぞれ修得することを想定	
		画像処理と実践応用演習	画像解析プログラムを作成し、そのプログラムを用いて、標準画像データを用いた画像解析の基本技術を紹介する。さらに、プログラムに改訂・発展させながら、目的に合わせて効率的に処理する手法を身に付ける。	
レギュラトリーサイエンス	レギュラトリーサイエンス概論		<p>科学技術により生じるリスクを客観的なデータに基づいて予測・評価すると共に、そのリスクを最小化するための対策を行う一連の科学的な概念であるレギュラトリーサイエンスについて、基本的な考え方を理解する。</p> <p>本講義では、医薬品、医療機器、食健康等における安全性やリアルワールドデータの有効性の評価に関するオムニバス講義を行い、様々な科学技術分野のレギュラトリーサイエンスとの関わりを学ぶ。これにより、健康に関連する個人、コミュニティの行動とその背景にある心理的、社会的な要因を把握すると共に、それらの要因や環境にどのように働きかけ、意思決定や行動変容を促し、健康の維持向上及び社会実装につなげるかの健康行動科学を理解する。</p> <p>まず、ガイダンスとレギュラトリーサイエンスの概要を紹介した後、以下の4つの分野におけるレギュラトリーサイエンスの講義及び健康行動科学について講義を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 治験・臨床研究、医薬品開発におけるレギュラトリーサイエンス ・ 食健康科学におけるレギュラトリーサイエンス ・ 重粒子線理工学におけるレギュラトリーサイエンス ・ リアルワールドデータの利活用とレギュラトリーサイエンス <p>(オムニバス/全16回)</p> <p>(44 弓仲康史/1回)ガイダンス、レギュラトリーサイエンスの概要</p> <p>(43 山本康次郎/1回)医薬品開発におけるレギュラトリーサイエンス</p> <p>(48 荒木拓也/1回)EBMの実践におけるリアルワールドデータの意義</p> <p>(87 八島秀明/1回)治験・臨床研究に関連する法律・制度</p> <p>(49 井手野由季/1回)健康科学におけるレギュラトリーサイエンス 人を対象とした研究の研究倫理</p> <p>(64 長井万恵/1回)健康科学におけるレギュラトリーサイエンス 介入研究、食事調査</p> <p>(26 大野達也/1回)社会実装に向けた放射線医療機器の開発</p> <p>(54 齋藤勇一郎/1回)医療情報学</p> <p>(78 渋谷圭/1回)放射線の管理・計測技術や法令の概論</p> <p>(53 加田渉/1回)放射線のリスク管理、リスクコミュニケーション</p> <p>(34 鈴木裕之/1回)生体情報センシングとその応用</p> <p>(18 青木悠樹/1回)AIを使ったリアルワールドデータの評価</p> <p>(58 高木理/1回)安全なデータの利活用に向けた課題と対策</p> <p>(93 小松康宏/1回)健康行動科学から考える医療の質と安全</p> <p>(98 津川友介/1回)健康行動科学から考える医療政策</p> <p>(52 片山佳代子/1回)健康行動科学から考えるがん検診受診行動</p>	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
連携開放科目	医学一般	病態生理学	<p>疾病の病態生理を学修する。主要な疾病の病態生理学的変化を解釈、判断するために必要な知識と技術について学修する。また、知識・技術を統合するために事例検討を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8 齊尾征直/2回)変性・循環障害、炎症・腫瘍 (35 対馬義人/1回)放射線部におけるリスク管理 (3 大山良雄/4回)代謝異常、肝不全、リンパ浮腫、不明熱 (9 齋藤貴之/1回)血液所見と異常の判断 (80 牧岡幸樹/1回)認知症疾患 (15 横山知行/2回)動脈硬化と高血圧、虚血性心疾患と心不全 (39 久田剛志/1回)呼吸不全 (4 小澤厚志/1回)内分泌疾患 (41 廣村桂樹/1回)腎不全 (25 浦岡俊夫/1回)消化管疾患</p>	オムニバス
		生理機能解析学(応用生理)	<p>生体の恒常性維持に関わるシステムの役割について解説する。ヒトを中心とした生物の基本的な生理機能について講義を通じて解説する。</p>	
		病理学概論	<p>ヒトの病気がいかなる原因で発生し、どのような過程を経て、どのような変化が人体に現れるかを知るためには、病気に陥った臓器・組織・細胞にみられる病変の形態学的理解と機能的特徴を知ることが必要である。本講義では疾病分類の基本となる病理学的分類をまず理解させるとともに、各疾患の成り立ちに関連する基本的病変について学修させる。また、病態を表現する病理学的用語の概念を正確に理解させることも本講義の目標である。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(27 小山徹也/3回) 腫瘍の定義と名称及び良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明する。さらに腫瘍の疫学、発がんの過程とそのメカニズム、がんの原因となる物質やウイルスについて述べる。また、がんを持つ個体における免疫反応と、臨床症状などを解説する。</p> <p>(45 横尾 英明/5回) 炎症の定義と成り立ち及び病変について講義する。急性炎症と慢性炎症における起炎物質の違い、炎症に関与する細胞と組織、炎症による組織の障害とその形態学的な病変について説明する。また、炎症による全身的な影響についても解説する。遺伝性疾患の成り立ちと病変について講義する。</p> <p>(55 佐野孝昭/3回) 循環障害の成り立ちと病変について講義する。水腫、充血、うっ血、出血などの発生のメカニズムを説明する。また止血の過程と血栓形成について説明し、塞栓症について解説する。循環障害の結果、臓器に発生する梗塞の病変を説明し、併せてショックについても解説する。</p> <p>(77 片山彩香/2回) 免疫異常疾患の成り立ちと病変について講義する。免疫に関与する細胞、免疫反応に係わる分子について述べ免疫反応が関与した細胞障害のメカニズムを解説する。また、自己免疫疾患、免疫不全症、アミロイドーシスなどについても解説する。</p> <p>(66 信澤純人/2回) 細胞損傷・適応・死・再生の成り立ちと病変について講義する。細胞が、酸素不足、ラジカル、化学物質などによりいかに障害されるかを解説し、障害の結果として細胞に現れる様々な適応反応や変性や細胞死について説明する。さらに、細胞内にプログラムされた死であるアポトーシスや細胞の老化現象についても解説する。</p>	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
地域・国際保健	臨床医学概論A		臨床医学の基礎を学び、それぞれの疾患についての診断法と治療法を理解する。講義及び臨床実習。 (オムニバス形式/全15回) (21 池田佳生/1回)生活習慣と神経疾患 (41 廣村桂樹/1回)慢性腎臓病の病態と治療 (69 藤田行雄/1回)神経変性疾患概論 (47 和田直樹/1回)脳卒中のリハビリテーション治療 (80 牧岡幸樹/1回)認知症疾患の病態と治療 (22 石井秀樹/1回)循環器疾患概論 (107 山田正信/1回)内分泌疾患概論 (25 浦岡俊夫/1回)消化器内視鏡診断と治療 (76 内山明彦/1回)皮膚科疾患の病態と治療 (72 前野敏孝/1回)呼吸器疾患の診断と治療 (67 半田 寛/1回)血液疾患の病態と治療 (26 大野達也/1回)癌の放射線治療 (68 樋口徹也/1回)最先端の画像診断と核医学治療 (24 岩瀬 明/1回)生殖医療概論 (31 佐伯浩司/1回)消化管外科学概論	オムニバス
	行動科学		行動科学とは、動物や人を含めた生物の行動を科学的に研究する学問であるが、ある「行動」が生じる際には、「脳」を含めた神経系の活動と、その脳活動と密接な関係がある複雑な「心理(こころ)」がそれぞれ背景にある。したがって、行動科学は、「心理」を研究することにもつながり、「脳」を理解することにもつながる。行動科学の基礎を学ぶことにより、人の行動やその背景にある「心理」や「脳」の働きを科学的に理解し、医学・医療に応用しうる素地をつくることを目的とする。 各教員がそれぞれの項目について、コアカリキュラムを参考に、できるだけ視聴覚的に体験できるデモや動画視聴などの手段を用いて、学生に可能な限り体験してもらいながら、解説する。また、後半の部分で、実際に精神科の臨床の現場に立っている実務経験のある神経精神医学教室の先生方に、臨床医学への導入や橋渡しとなるような講義をして頂く予定である。 (オムニバス形式/全15回) (63 細井延武/7回) 行動科学・心理学序論、生得的行動、習得的行動(学習)①、習得的行動(学習)②、知覚、脳と行動、社会心理学の基礎(99 配島 旭/8回) 記憶、パーソナリティ・個人差・知能、動機づけ・欲求・ストレス、脳と心、脳科学の基本、意識と無意識、脳と心の発達、心身相関	オムニバス
	地域保健医療研究概論		地域保健医療の現状、取組、問題点や地域保健医療研究の方法について、それぞれの専門分野の立場から教授する。特定の職種や分野にとらわれず、地域保健医療に関する幅広い知見の修得を図る。 (オムニバス形式/全15回) (15 横山知行、32 佐藤由美/1回)(共同)地域保健医療における研究の必要性・意義地域看護実践における研究の動向 (92 輿石一郎/1回)健康と酸化ストレス (106 山崎恒夫/1回)神経難病と地域保健医療のかかわり (29 近藤浩子/1回)慢性精神障害者の地域移行のためのリハビリテーション (97 嶋田淳子/1回)感染症と地域社会 (19 李 範爽/1回)中小規模病院における多職種連携の現状と課題 (28 金泉志保美/1回)群馬県における小児の在宅医療・療育の現状と課題 (73 松本竹久/1回)地域社会と感染対策 (39 久田剛志/1回)群馬県の呼吸器疾患 現状と課題 (30 近藤由香/1回)がん患者へのリラクゼーション法による支援 (56 柴田孝之/1回)地域保健と検査技術 (60 田中浩二/1回)地域における生活行為向上リハビリテーション (23 伊東美緒/1回)認知症高齢者とその家族をとりまく地域保健医療の課題 (85 土岐明子/1回)群馬県における糖尿病の現状と地域の役割 (82 秋山稜登/1回)地域包括ケアシステムにおける回復期リハビリテーション病院の役割	オムニバス 共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	国際協力・保健学特論		<p>国際保健分野において、人々が健康に生活するために解決されるべき課題を確認すると同時に、健康を支えるための枠組みとしての国際保健システム、特にWHOの組織や活動の実際、発展途上国における健康についての課題について講義する。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(10 篠崎博光/10回)国際保健、国際医療協力基礎理論途上国の保健医療－現状と対策 I</p> <p>(83 鬼塚陽子/5回)国際感染症総論途上国の保健医療－現状と対策 II</p>	オムニバス
倫理	研究倫理		<p>研究不正や利益相反などに力点を置くe-learning (Aprin) を補完する位置づけで、対面式の集中講義として開講される。倫理的な基本と実際的な手引きから構成され、研究協力者の募り方から、リスク/便益の評価、個人情報保護、倫理審査委員会の受審、試料・情報の保存、論文投稿までを扱う。最後には小グループに分かれてケーススタディを行う。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(38 服部健司/8回)ガイダンス、研究倫理の背景、研究と診療の区別、インフォームド・コンセント、ケース・スタディ、小グループ討議、全体報告・意見交換</p> <p>(81 森 禎徳/1回)プライバシーと個人情報保護</p> <p>(42 茂木精一郎/1回)</p> <p>人を対象とする医学系研究倫理審査委員会の審査の要点について</p> <p>(28 金泉志保美/1回)被験者・研究協力者の選定・募集・謝礼</p> <p>(8 齊尾征直/1回)リスク・ハームと便益の評価</p> <p>(39 久田剛志/1回)情報開示・偶発的発見・有害事象</p> <p>(15 横山知行/1回)研究データ・試料の保存について</p> <p>(40 平井宏和/1回)論文投稿</p>	オムニバス
	研究倫理(e-learning)		<p>「人を対象とする医学研究に関する倫理指針」では「研究者等は、研究の実施に先立ち、研究に関する倫理並びに当該研究の実施に必要な知識及び技術に関する教育・研修を受けなければならない。また、研究期間中も適宜継続して、教育・研修を受けなければならない。」とされている。専門分野で独創的あるいは学際的な研究を遂行する際にふまえておかなければならない倫理の基礎をカバーするのが目的である。</p> <p>APRIN eラーニングプログラム教材は、米国のCollaborative Institutional Training Initiative (CITI) によって開発された教材をもとに、法律指針文化思想を我が国に即したものに「日本化」したうえで医学者のみならず他領域を含む専門家の査読をへて改訂されてきたものである。</p> <p>大学院生(医学研究科)コース(15単元)を必修とする。研究不正(捏造、改竄、盗用)、利益相反管理、著者であることの要件や責任などを15回にわたって学修する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
データサイエンス	統計・情報処理演習A		<p>統計学的手法を理解し、実際に統計計算ができ、受講生自身の研究の統計学的検討が自由に行えるようになることを目標としている。</p> <p>指定教科書(日本統計学会「資料の活用」と「データの分析」)とサンプルデータを利用し、15回の講義枠の中で、学生が医学統計処理の演習をおこなう。毎回出席用紙を兼ねたミニレポートを提出する。 (オムニバス形式/全15回) (50 内田満夫/11回)</p> <p>医学データの表現：グラフ作成の基礎を学ぶ。質的データ(カウントデータ)の理解と表現：度数分布表を作成する。量的データ(連続値)の理解と表現：ヒストグラム、散布図を作成する。時系列データを見る：折れ線グラフから移動平均を計算する。また指数関数及びロジスティック関数のグラフを作成し、その適用方面を知る。標本調査：悉皆調査と標本調査をまなぶ。また4分位、箱ひげ、レンジ、信頼区間で比較する。データのばらつき：分散、標準偏差の計算と標準正規分布へ変換する。相関と散布図：量的データの2値の相関(Pearsonの相関係数)を計算する。因果関係の推測：単回帰分析を計算する。独立した2群の比較(量的データ)：対応のないt検定の計算。独立した2群の比較(質的データ)：X²乗検定の計算。医療統計の実践：RstudioやPythonなどによる統計解析の実演。 (13 浜崎 景/3回)ビッグデータの解析・統計解析を行う上で便利なプログラミング言語 (52 片山佳代子/1回)実践的な統計解析手法等について</p>	オムニバス
	情報医療学講義		<p>この講義は将来医療人(医師など)として活動する予定の研究者及び医療社会と患者社会を適切につなぐ役割を担う(医療システム開発、医療福祉機器開発、ヘルスプロモーション、医療福祉関連の事務・行政などにかかわり指導的立場を目指す)研究者を育成するために開設される。すなわち、医療情報を社会での実践に結びつけるための医療学を修得するための講義である。授業内容は、医療情報システム、情報処理技術、医学・医療の3分野からなる。</p> <p>担当教員は、医療情報技師・上級医療情報技師の資格と実務経験を有する。 (オムニバス形式/全15回) (54 齋藤勇一郎/7回)医学・医療、医療情報システム、情報処理技術 (62 鳥飼幸太/8回)医療情報システム、情報処理技術、医学・医療</p>	オムニバス
	基礎保健データ解析学		<p>保健データの解析に必要な基本的な統計学の理論を学ぶ。PCを用いたデータ解析の基本操作について指導し、演習を行う。質問票調査によるデータ収集や解析に必要な知見について解説する。保健や医療の分野における研究データを用いた解析の実例を紹介する。 (オムニバス形式/全15回) (1 大庭志野/11回)</p> <p>総論、記述統計、データベースの基礎、推測統計、t検定、分散分析と多重比較、相関、χ^2検定、ロジスティック回帰分析、まとめ (61 豊村 暁/2回)保健分野の研究事例 (108 吉田 亨/2回)質問票の開発</p>	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
ヘルスコミュニケーション	異文化コミュニケーション論		<p>国際保健医療協力や国際学術研究交流等の場では、言語・文化の異なる人々といかに意志疎通を図るかが重要な鍵となる。その為に言語的・非言語的コミュニケーション能力が必要とされる。本科目では英語等による日本文化や生活習慣、保健医療等の紹介の演習を通じて外国語による基本的言語表現能力を高めるとともに、異文化コミュニケーションの理論及びトレーニングにより異なる文化的背景をもつ人々とのコミュニケーションの能力の修得を図る。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(46 渡部孝子/4回) 異文化接触などの概論 (74 牧原 功/4回) コミュニケーションと言葉・文化 (16 辻村弘美/7回) 異文化理解、英語を用いて自国の紹介</p>	集中 オムニバス
	医療人のための教育学 I		<p>近年医療系学部の教員にも教育学の知識が必要とされるようになった。そこで、本講義を通じて、包括的に教育学の知識の修得を目指す。本講義では、「医療人への医学教育の必要性」「教員論」「教育原理」「教育方法学」「情報リテラシー論」「教育方法演習」「道徳教育論」を主に講義形式で学ぶ。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(8 齊尾征直/1回) 医療人への教育学教育の必要性 (57 新藤 慶/2回) 教員論 (75 村田祥子/5回) 教育原理、教育方法学 (103 宮内 洋/5回) 情報リテラシー論、教育方法演習 (65 二宮 祐/2回) 道徳教育論</p>	集中 オムニバス
ゲノム	ゲノム医科学演習		<p>疾患の発症機構や病態の解明を、遺伝学、分子生物学的に解明する分子遺伝医学研究は、ヒトゲノムの解明やRNA研究及びエピゲノム研究の進展等により、急速に発展している。同時に、これによって得られた膨大な情報の利用、関連したバイオインフォマティクスと生体分子のハイスループットの解析技術も急速に進歩している。本演習では、これらの情報と技術を駆使して疾患の本質に迫る原理及び方法を修得することを目的とする。</p> <p>学位研究テーマに関連した代表的論文を討論形式で精読するとともに、実際に演習研究を設定し、研究計画の立案・実行を指導する。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(37 畑田出穂/8回) 学位研究テーマに関連した代表的論文を討論形式で精読するとともに、実際に演習研究を設定し、研究計画の立案・実行を指導する。 (71 堀居拓郎/7回) 学位研究テーマに関連した代表的論文を討論形式で精読するとともに、実際に演習研究を設定し、研究計画の立案・実行を指導する。</p>	オムニバス
	遺伝学		<p>基礎医学、臨床医学における遺伝学上の知見・知識を身に付け、それらがお互いに関連していることを理解し、遺伝学的側面を有するさまざまな臨床上の問題に対応できることを目指す。また、これらの学修を通じ、知識の獲得と知識を応用する力を涵養する。</p> <p>基礎医学から臨床医学における遺伝学に関する授業を行う。遺伝学の基礎に関して授業11回を行う。続いて、疾患を題材にし、臨床経験豊富な実務経験を持つ教員が、その実務経験を活かして、学生発表を合わせた授業10回を行う。この科目の最後に筆記試験を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教育専門コア科目	環境保健学		<p>基礎医学分野における衛生学に関する知識を修得することを目的とする。衛生学では、健康の保持増進やよりよい生活環境のために個体や集団をとりまく環境諸要因と健康・疾病(感染症を含む)との関係について理解を深める。さらに、予防医学として重要な疾病予防や健康増進のための方法、知識を修得することを目指す。</p> <p>人間をとりまく環境と健康への影響について学ぶ。また集団レベルでの感染症成立の要因、発生动向の確認や感染制御方法について学ぶ。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(13 浜崎 景/1回) 環境保健学イントロダクション (51 大上厚志/8回) 産業衛生、感染症疫学、食品衛生1 (84 瀬戸絵理/2回) 食品衛生2 (86 藤原悠基/2回) 毒性学 (50 内田満夫/1回) 環境衛生学 (88 山崎千穂/1回) 公害</p>	オムニバス
	疫学		<p>本講義は、データサイエンスの知識・技能を持ち医療系大学院への進学(研究者)や高度専門職業人として活躍したい人材養成のための教育として開講する。疫学の基本知識の修得から社会実装までの実践的な活動への理解を各自の割り当てられた演習テーマに沿って疫学調査・研究活動を進め、それを論文やプレゼンテーションとして結実させる能力を疫学研究を通して養成する。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(13 浜崎 景/1回) 疫学概論 (52 片山佳代子/14回) 疫学の指標、交絡を理解する、研究をデザインする、疫学方法論、主要疾患の疫学と予防対策</p>	オムニバス
	生物統計	臨床試験特論		<p>治療法・予防法の確立、また、EBM実践のためには、科学的根拠が必要となる。科学的根拠を提供する代表的研究である臨床試験について、その枠組みを学修する。特に、CRC、CRA、ResearchNurse、Data Managerを目指す者にとって重要となる点を中心に解説する。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(17 林 邦彦、94 阪口昌彦/1回)(共同)臨床試験論文の読み方 EBM、EBHCの視点、臨床試験の位置づけ (64 長井万恵/1回)臨床試験の各種研究デザイン、試験計画書とCRFランダム化と盲検化の原理と方法 (4 小澤厚志/3回)中間のまとめ、臨床試験の弱点とその補強、まとめ (15 横山知行/1回)循環器疾患の治療における臨床試験の実際 (100 原佳津行/1回)臨床試験における薬剤部、臨床薬理学部門の役割と機能 (43 山本康次郎/1回)治験・医薬品臨床試験に関わる各種ガイドラインや規定 (96 佐藤泰憲、94 阪口昌彦/2回)(共同)臨床試験における生物統計入門 (38 服部健司/1回)医療における倫理 (49 井手野由季/1回)臨床試験のメタアナリシス (89 浅尾高行/1回)医療機器の開発と次世代医療基盤法 (104 村上博和/1回)臨床試験のコーディネーションの実際と医薬品の有効性と安全性 (95 佐藤恵子/1回)わが国の臨床試験の問題点とあるべき姿</p>

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	生物統計学		<p>中～上級者向けのより実践的な生物統計学について講義で解説する。研究デザインに応じたサンプルサイズ算出法、様々なランダム割付法、要因配置法など、また、統計解析では、多重比較、繰り返し測定データ解析、経時データ解析、生存時間解析、多変数調整回帰分析、傾向スコア解析やデータマイニングなどについて、研究現場での質疑内容を熟知した教員が、その実務経験を活かして生物統計に関する授業を行う。</p> <p>(オムニバス形式/15回)</p> <p>(101 藤田晴康/3回 生物統計と臨床研究、他)</p> <p>(90 伊藤ゆり/3回 経時データ解析、生存時間解析、他)</p> <p>(33 嶋田 香/3回 多変量解析、データマイニング。他)</p> <p>(52 片山佳代子/3回 研究デザインと解析、傾向スコア、他)</p> <p>(64 長井万恵/3回 臨床研究、他)</p>	オムニバス
	医療政策学・医療経済学特論		<p>医療サービスの消費を経済学的及び政策的観点から理解することを目的とし、医療財の特性、消費者行動、医療市場の動きなどのミクロの視点から、医療と政策・財政のマクロな視点まで含めて総合的に解説する。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(8 齊尾征直/1回)医療政策学・医療経済学総論</p> <p>(102 福田 敬/6回)医療経済学</p> <p>(105 森 和彦/6回)医療政策学</p> <p>(91 片野田耕太/2回)医療政策学</p>	オムニバス
	社会・環境医学講義A		<p>臨床的研究及び社会医学的研究を行う上で必要な社会学、実験計画法、研究倫理などについて講義を行う。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(13 浜崎 景/8回) 公衆衛生学概論、疫学、保健統計、予防医学、国際保健、公衆栄養学、障害者保健、精神保健</p> <p>(50 内田満夫/3回) 環境保健、産業保健、高齢者保健</p> <p>(88 山崎千穂/4回) 母子保健/学校保健、食品衛生、地域保健、保健医療</p>	オムニバス
社会医学・行動科学				
インターンシップ	インターンシップ I		<p>修得した学問を、企業において実践的に活用する能力を培うために、企業におけるインターンシップを行う。事前のガイダンスの後、インターンシップを行い、発表会を開催しそこの発表・討論を経験させる。</p>	
	インターンシップ II		<p>修得した学問を、企業において実践的に活用する能力を培うために、事前教育を含めて3ヶ月程度の長期間の企業におけるインターンシップを行う。事前教育としては、企業におけるマナー、知的財産、安全管理について教育する。加えて、派遣先の企業及びそこの職務に応じた周辺分野の教育も行う。派遣先企業の担当者と協議を基に経過報告書を作成することを義務づけ、最終的な報告書を提出させ、最後に発表会を開催しそこの発表・討論を経験させる。</p>	
	国際インターンシップ I		<p>外国人と協調して仕事に取り組める人材の育成を目的に、国際語である英語のコミュニケーション能力及び異文化の知識を修得するため、一定期間以上(1週間程度以上)の海外の群馬大学協定校における研修、又は海外における専任教員が引率する研修会における研修を行う。研修では、海外の学生や教員、研究者との交流会やディスカッション、ミーティング、共同作業への参加、海外の学術機関における実験、実習のいずれかを行う。最後に、研修終了後研修内容を発表会で発表させる。</p>	
	国際インターンシップ II		<p>外国人と協調して仕事に取り組める人材の育成を目的に、国際語である英語のコミュニケーション能力及び異文化の知識を修得するため、一定期間以上(2週間程度以上)の海外の群馬大学協定校における研修、又は海外における専任教員が引率する研修会における研修を行う。研修では、海外の学生や教員、研究者との交流会やディスカッション、ミーティング、共同作業への参加、海外の学術機関における実験、実習のいずれかを行う。最後に、研修終了後研修内容を発表会で発表させる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別研究	特別研究		<p>指導教員のもとで、特定の研究テーマ・課題を設定し、研究計画立案から論文作成まで継続的な研究指導を受ける。特別研究特論及び特別研究演習で修得した知識・技能を現地調査(フィールドワーク)、資料収集、分析・統計解析、論文作成などで実践し、問題解決能力を身に付ける。</p> <p>(1 大庭志野)生活習慣病のリスクに影響を及ぼす曝露要因の疫学研究、国際的な比較検討に資する集団のための尺度開発の研究、リスク因子の知識と疾病予防行動の研究</p> <p>(2 大山善昭)臨床研究の実施する上でのレギュレーションを理解した上で、リサーチクエストンにはじまる臨床研究を自ら立案できるようになるよう指導する。</p> <p>(5 神谷 亘)分子生物学的手法と組換えウイルス作出技術を用いて、人獣共通感染症の原因病原体であるウイルスの複製増殖機構と病原性の解析を研究課題として指導することで、感染症に対する幅広い知識の修得を目指す。</p> <p>(6 鯉淵典之)疫学研究から得られたデータをもとに、環境中に存在する化学物質による発達期中枢神経系への影響を研究課題として指導する。</p> <p>(7 小和瀬桂子)日常臨床から得た健康問題に対する疑問点に対し、自ら研究立案・課題解決ができるように指導する。具体的なテーマとしては、地域医療、臨床推論、全人的医療、漢方医学、医学生の総合診療能力獲得のための教育、漢方医学実習の教育効果などを研究課題とする。</p> <p>(9 齋藤貴之)群馬県民の健康の保持・増進を目的とした県内の保健データ解析</p> <p>(11 富田治芳)抗菌薬の使用と薬剤耐性菌分離状況について取り上げ、薬剤耐性菌の制御法と院内感染症対策に関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(12 秦健一郎)ヒトの疾患や体質とゲノム(遺伝情報)とのかかわりを、網羅的ゲノムデータを取得する実験やバイオインフォマティクスによる解析で明らかにするとともに、特に食生活などの環境因子によって変化するゲノム機能についての研究指導を行う。</p> <p>(13 浜崎 景)疫学調査から得られたビッグデータをもとに、食品・栄養素・食事パターンなどと生活習慣病あるいはメンタルヘルスとの関連を研究課題として指導する。</p> <p>(14 南嶋洋司)公共データベースから得られたビッグデータを元に、ヒトの疾患、特に老化・癌などに関連する糖・脂質・アミノ酸代謝異常の原因分子・責任代謝経路の探索と同定を目指す。</p>	

